

拠点創出・地域交通 付知地区における取り組み (東京大学共同研究)

付知地区の魅力・ポテンシャル

山	山に囲まれた美しい風景 山を生業の場としてきた歴史 林業・製材・木工
水	まちを貫く清流・付知川 観光名所・付知峡 受け継がれてきた用水 自然の水が生活の一部
街道	古くから飛騨へと続く街道 明治期には御嶽詣で繁盛 付知銀座にぎわいの歴史

付知地区が抱える課題

- 人口減少・少子高齢化
- 公共交通の弱さ
- 賑わいの減少
- 地域コミュニティの維持
- バイパスへと移るまちの重心

付知地区の新しい交通のコンセプト

- 広域交通 × 立ち寄り観光 (リニア岐阜県駅や馬籠宿と下呂温泉の中間を活かす)
- 地域交通 × コミュニティ (付知銀座に地域住民・観光客が集う拠点創出)

今回の 検討・実装

- 付知地区をモデルとして、
- ①自動運転技術の導入・運営
 - ②自動運転予約アプリ開発
 - ③拠点創出・運営

付知地区の新しい生活の形イメージ(例)

- 高齢者の暮らし**
免許返納後も公共交通を利用して様々な移動が可能となり、交流が増える
- リモートワークの若者の暮らし**
普段は付知地域で生活しながら週数回の名古屋通勤も可能
- 高校生の暮らし**
公共交通を利用して家族の送り迎えなしでも通学できる
- 観光客**
リニア岐阜県駅からバスを乗り継ぎ、付知地域に立ち寄って下呂まで向かう

現在の検討状況



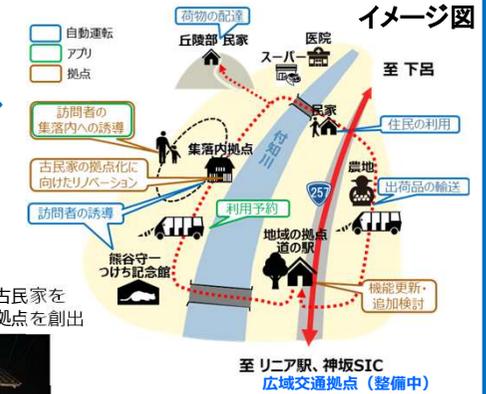
集落内拠点

付知地域デザインミュージアム

(令和4年10月開設) 明治8年創業の割烹料理の古民家をリノベーションし、地域の拠点を創出



付知川をイメージした水盤を整備した辻広場



- 地域ニーズを踏まえつつ、
- ①コミュニティバスの改善
 - ②デマンドの強化
 - ③自動運転化
- などを検討していく



集落内交通 (三次交通)

旧街道を走行する 自動運転バス (R6実証実験の様子)

道の駅に「ぎふ木遊館サテライト施設」の整備(R6.8)

道の駅周辺の付知川で「河川空間利用計画(ミズベリング)」を推進中

地域の拠点

道の駅 花街道つち

交通拠点機能強化 (検討中)



付知駆けつけバス(デマンド)実証実験(案)

目的：付知地区の運行エリアで自宅近くのコミュニティバスの停留所を活用し乗り合いデマンド運行及び産直農家を巡回し農産物を道の駅へ輸送の実証実験を行い、**移動手段の必要性、利便性の検証**を行う

項目	内容	備考
実験期間	R7年10月～R7年12月(約3か月予定)	・運行日:火・水・木・金 ※農産物輸送:10月中(木)
走行時間	9:00～12:00 (45分間隔) 8:00～8:45 (農産物輸送)	・コミュニティバス運行 (平日午前)
運賃	無料	
走行車両	日産セレナ	
乗車人数	7人	
走行範囲	付知地区(右図)	・コミュニティバスの停留所を活用
車両発着地点	付知B&G海洋センター (NPO法人つけちスポーツクラブ事務所)	
その他	運転手、予約管理、電話受付: NPO法人つけちスポーツクラブ ※利用者アンケートの実施	



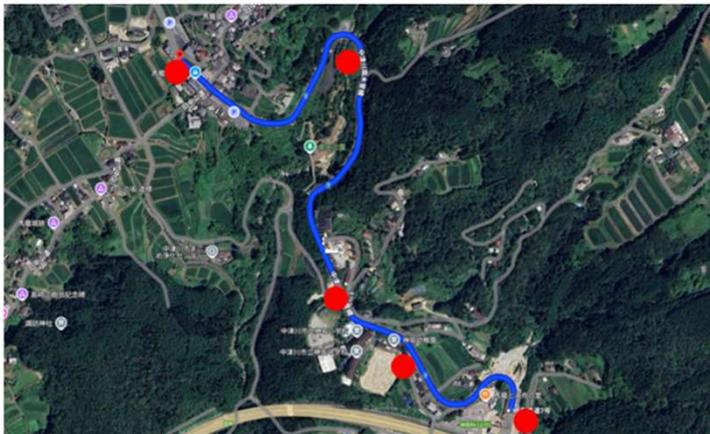
R7年度 自動運転の実証実験について(神坂・馬籠地区)

計画案

■ 自動運転社会実装推進事業
R7年度は東濃5市及び下呂市によるコンソーシアムを編成し、各市で自動運転実証実験に取組む

- **事業背景:** 岐阜県中津川市は、歴史ある宿場町や豊かな自然を有する一方で、中山間地域の公共交通の脆弱性や高齢化が課題となっている。神坂スマートIC付近は交通の要衝として機能しつつも、馬籠宿への移動は車頼みになりがちで、観光客や地元住民にとって必ずしも利用しやすい環境とはいえない状況となっている。
- **事業の特徴、ポイント:** 新たに設置される神坂スマートICから馬籠宿への新しい移動手段により交通空白地帯の解消につながり地域住民からの運賃収入が見込め、さらに観光客の移動利便性向上により馬籠宿での観光消費額拡大が期待できる。
- **今年度の取組、検証内容、レベル4運行の達成時期:** 2027年にレベル4運行開始に向けて、今年度はレベル2での定時運行に取り組む。リスク及び手動介地域の受容性、利便性、安全性に関する意見や利用データを収集する。

■ 実施概要



●:バス停 | —:運行ルート

運行ルート	神坂スマートIC～馬籠宿 距離: 1.3km(片道)
運行ダイヤ	所要時間: 約30分 11便/日 運行曜日: 月～日曜日
運行期間*1	R7年11月17日～R7年11月23日
運行主体/交通事業者	(株)マクニカ、西日本電信電話(株)、(株)みつばコミュニティ
インフラ連携	R7年度は無

■ 車両概要(予定)

車両名	EVO
車両メーカー	Navya Mobility SAS
自動運転システム開発事業者	マクニカ
乗車定員	12名(自動運転時: 10名)
最高速度*2	18km/h
台数	1台



■ 将来ステップ

項目	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
レベル4運行*3	—	—	○	○	○
台数	1台	1台	1台	1台	1台
運行ルート	神坂スマートIC～馬籠宿	神坂スマートIC～馬籠宿	神坂スマートIC～馬籠宿	神坂スマートIC～馬籠宿	神坂スマートIC～馬籠宿
運賃	無償	無償	無償	有償	有償
運転者	有	有	有	有	無
特定自動運行主任者	遠隔	遠隔	遠隔	遠隔	遠隔
遠隔監視体制	1:1	1:1	1:1	1:1～2	1:1～3

■ 通年運行開始時期
R10年度開始予定

■ レベル4運行開始時期
R9年開始予定

*1: 関係者試乗運行と一般運行の合計(補助対象期間のみ)

*2: 自動運転時の最高速度

*3: ○: 1系統内の全区間でレベル4運行、○: 1系統内の一部区間でレベル4運行、—: レベル4以外の運行